

「土」本来の力を発揮させる「サルパーS[®]」 主役は微生物です

ラクラク！簡単！土づくり

サルパーSは、従来の堆肥づくりにおける面倒な繰り返しや作業を省き大幅な省力化を実現します。

サルパーSを使用する土づくりは、ほ場に完熟堆肥を使用するのではなく、生の有機物を一緒にすき込むことで微生物の働きを活発にし、土の中で堆肥化します。

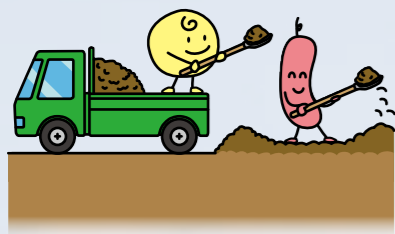
サルパーS[®]を使うと…

1. サルパーSの施用により、土壌の微生物相が改善され、作物の生育に適した栽培環境が作られます。
2. 生の有機物を利用した土づくりにより、土壌の生物性が改善され通気性・保水性・排水性の向上が期待できます。
3. サルパーSに含まれる微生物の働きにより、根圏環境が改善され、連作障害に対する副次的な軽減効果が期待できます。

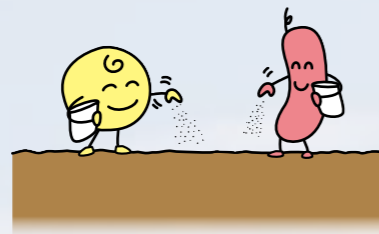


サルパーS[®] 使用手順

1. 有機物をまく



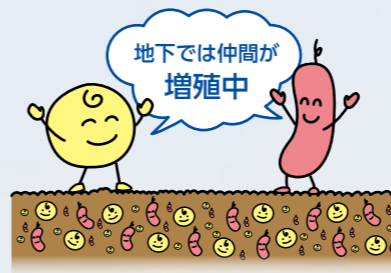
2. サルパーSをまく



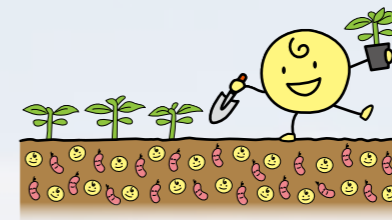
3. 速やかにロータリーですき込む



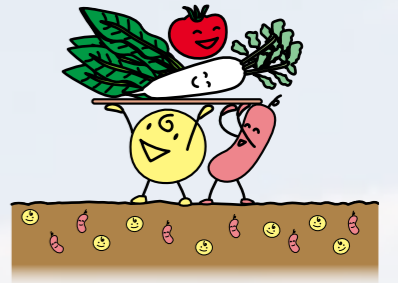
1~3週間あけて



4. 作付けをする



5. そして、収穫する



サルパーS[®] 使用量 (10アール当り)

施設野菜・花卉 3~4袋 (30~40kg)

露地野菜・牧草 2~3袋 (20~30kg)

果樹・お茶 2~3袋 (20~30kg)

土壌水分はタップリと！

微生物を活発に働かせるために、土壌水分が少ない時はすき込み後、灌水を行ってください。
(特にハウス内で著しく乾燥する場合は、必ず灌水が必要です。)

地温によって異なります

微生物の活動に最適な地温は15~35℃です。
これ以外の地温でも使用できますが、状況によって効果の現れ方は異なります。

有機物投入の目安 (10アール当り)

	有機物の種類	有機物の量	硫安 (炭素率調整)	米ヌカ (増量材)	有機物の分解期間
1	緑肥 (ソルゴー)	全部	不要	200~300kg	1~2ヵ月
2	作物残さ	全部	不要	200~300kg	1~2ヵ月
3	生モミガラ	1トン (約8反~1町歩でとれる量)	40kg*	200~300kg	6~10ヵ月
4	畜ふん生堆肥 (オガクズ・チップ・モミガラ入り)	5~7トン	不要	200~300kg	6~10ヵ月

基肥は、作物に応じて通常どおり施用することを基本とします。

*生モミガラを使用する際は、基肥の窒素分とは別に微生物のための窒素分が必要となります。これを忘れると作物が窒素欠乏になる恐れがあります。

ただし、この量は一般的なほ場に使用する場合の目安ですので、過度にECの高いほ場や多量の肥料成分が残っているほ場の場合は使用量を減らすなど調整が必要となります。



繰り返しのいらぬ土中ボカシ

米ヌカなどの有機物を直接ほ場にすき込み微生物の力で基肥 (ボカシ肥) とすることもできます。この場合、ボカシ材料の総重量に対して5%以上のサルパーSを添加し、すべてをすき込みます。すき込み後、10日以上経てば作付けが可能となります。